

扁額の書

高木茂行（聖雨）

Shigeyuki (Seiu) Takaki

扁額に篆書二字を書いた作。右下の印は呉昌碩六六歳時の「且飲

墨瀋一升」印で、作品本文はそれに従ったものである。篆書自体も

呉昌碩に従った。太細と行意のある線、墨量の自然な変化に留意し

たつもりである。

部屋掛けの書というものは、目から入ってくる作品自体の美しさ

は当然のこと、心に訴えかける文言が書かれていることも大事だと

思う。墨を飲むという行為はいくつかの意味を持っているようだが、

呉昌碩は書・画・篆刻・詩などの墨技を胸中の墨とし、それらを自

家薬籠中のものにせんとする文言として、この印を刻したのである

う。非常に良い言葉である。

・ 积文

墨飲。宋人語。且飲墨瀋一升。己亥春日。聖雨書。

・ 用具用材

筆：聖筆（兼毫筆）

紙：南華箋（台湾画仙）

墨：郁文（墨液）

・ 寸法

三五×一〇三cm



35 × 103cm

墨飲。
 宋人語。且飲
 墨酒一升。
 己亥春日。
 聖雨書。